

版
許

卷
五

小學初等科

作文書

藤岡文華堂藏

岸田吉
男
糸

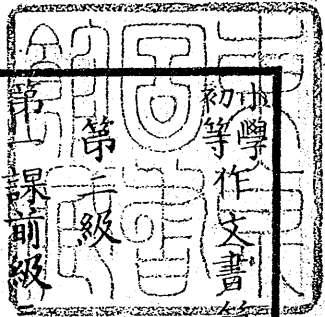


緒言

此書ハ大阪府頒布ノ小學校教則ニ
基キ初等科作文ノ例ヲ記載ス其意
專ラ生徒ヲシテ毛穎脱帽ノ勞ヲ省
カシメント欲スルニ在リ故ニ授業
ノ法方ハ畧シテ之ヲ記サス初等科
ニ從事スル生徒此書ニ就テ習鍊常
ニ怠ラサレハ廢幾ハ必補ナクンハ
テラスト云々

明治十六年五月

編者誌



初等作文書第五

第三級

第一課前級

岸田吉興編集

兎

同シ

兎原野ニ棲ム小獸ニシテ其肉ハ食ニ供シ可ク其毛ハ筆ヲ製ス

狐ハ其性甚ク狡猾ナル獸ニシテ屢人ヲ誑カシ食物ヲ盗ミ去ル

鱈

岸田吉興

作文書 不詳二級
鰻ハ諸國ノ海ニ産シ品類多シ其
肉ハ脯ニ作り又醃藏トナレテ山
家ニ輸送ス

雁

雁ハ秋南ニ來リ春北ニ去ル其飛
フギハ必ス斜ニ列ヲナス世ニ之
フ雁行トイフ

南天

南天ハ多ク庭前ニ植ウ梅雨ノ頃
ニ花ヲ開キ冬ニ至リテ實ヲ結フ
其色紅ナリ

菊

菊ノ花ハ霜ヲ侵シテ開ク其色種
種アレ氏多クハ黄色ナリ其香馥
レキヲ以テ人之ヲ愛玩ス

椅子

椅子ハ木ニテ造リ籐ノ床ヲ張ル
人之レニ靠リテ坐スル時ハ甚ク
健康ヲ助ク

煙草盒

煙草盒ハ木製ナリ中ニ火器ト灰
筒トヲ入レ煙草ヲ吸フ時用ナル
具ナリ

秤

秤ハ衡ヲ木ニテ造リ推ヲ鐵ニテ造ル衡ノ上邊ニ秤星ヲ刻レ物ノ輕重ヲ測ル器ナリ

襦袢

襦袢ハ絹木綿等ニテ製レ肌ニ貼クル服ナリ又西洋風ノ襦袢アリ之ヲ「レヤット」云フ

蟹

蟹ハ海河等ニ産ス皆八足ニシテ兩手ニ鉗アリ月夜ニハ穴ニ蟄レテ出ルヲナレ

猪

猪ハ山林ニ棲ク其性甚タ猛惡ナリ夜間ニ出テ、田圃ヲ害レ大ニ村民ノ患ヲナス

萩

萩ハ灌木ニシテ原野ニ生レ又園庭ニ植ウ其花ハ秋開キ人ノ賞玩スルモノナリ

百合

百合ハ初夏ノ頃赤キ花ヲ開ク根塊ハ蓮花ノ如クシテ食フヤシ味甘クシテ苦味ヲ帶フ

櫻

櫻ノ花ハ春開ク一重八重等ノ別
アリテ種類極メテ多ク古ヨリ人
ノ愛玩スルモノナリ

猫

猫ハ小ナル家畜ニシテ鼠ヲ捕フ
ルノ能ハ賞ス可レト雖モ竊盜ノ
性アルハ憎ム可レ

鳥

鳥ハ羽毛黒キ鳥ニテ清且ニハ群
飛シテ啞啞ト啼ク相傳フ此鳥反
哺ノ孝アリト

鎌

鎌ハ鐵ト鋼ヲ鍛ヒテ造リ木ノ柄
ヲ嵌ム其形新月ノ如シ稻麥及ヒ
草ヲ刈ルニ必用ノ具ナリ

蓑

蓑ハ茅蒿等ヲ以テ製ス其形衣服
ノ如シ雨中外出スル時身ニ着シ
雨ヲ凌クモノナリ

炭

炭ハ檜櫟等ヲ燒キテ造ル再ヒ燒
キテ烈火トナシ食物ヲ煮又寒氣
ヲ防クニ用ウ

蓆

蓆

箒ハ竹條椽欄高等ニテ造ル竹箒
ハ庭園ヲ掃ヒ椽欄箒ハ室内ヲ掃
クニ用ウ

蚊帳

蚊帳ハ夏ノ夜釣リテ蚊ヲ拒クモ
ノナリ多クハ粗キ麻布ニテ製ス
柿ニハ木綿ヲ用ウルモアリ

葛籠

葛籠ハ竹ヲ編ミテ造リ上ニ紙ヲ
張り渋ヲ塗ル多ク衣服ヲ納ル
ニ用ウ

刷毛

刷毛ハ獸毛及木片ニテ造リ糊漆
等ヲ塗リ又畫ヲ寫スニ用エル具
ナリ

長持

長持ハ大ナル箱ニレテ桐杉等ノ
板ニテ造リ表面ニ漆ヲ塗ル衣服
道具ヲ入ル、モノナリ

鶯

鶯ハ藪林中ニ棲ム立春ノ候ニ至
リテ啼ク其聲清朗ナルヲ以テ人
之ヲ愛ス

牡丹

牡丹ハ花輪極メテ大ク其香殊ニ
馥シ古人此レヲ花中ノ富貴ナル
モノト稱ス

團扇

團扇ハ竹ヲ細ク割リ兩面ニ紙ヲ
貼ル其形方圓有リト雖モ多ク圓
ナルヲ以テ此名アリ

時計

時計ハ種々ノ金類ニテ造リ晝夜
ノ時ヲ計ル器ナリ懐中スルヲ袂
時計ト云フ形至テ小シ

算盤

算盤ハ木ニテ造リ其珠ハ多ク黄
楊柎等ヲ用ウ物數ヲ計ルニ欠ク
可ラサルノ要具ナリ

傘

傘ハ竹ニテ骨ヲ造リ上ニ厚紙ヲ
貼リ油ヲ塗ル雨中ニ歩行スルキ
翳スモノナリ

下駄

下駄ハ歩行スルキ履クモノニシ
テ桐杉等ニテ造リ獸皮又ハ絹木
綿等ノ緒ヲ附ク

泥鰌

三才圖會 卷之六 下

泥鰌ハ水田溝渠等ノ泥中ニ産レ
食用ニ供ス可レ其形鰻ノ如クナ
レドモ其味ハ大ニ劣レリ

蚊

蚊ハ了了^{ホウフリ}ノ羽化セシモノニテ晝
ハ陰所ニ潜伏シ夜ニ至レハ群飛
レ來リテ人畜ヲ螫ス甚ク厭フベ
キ蟲ナリ

龜

龜ハ江河池澤ニ産ス身ハ堅甲ノ
中ニ在リ能ク長壽ヲ保ツヲ以テ
人呼テ万年ノ龜ト云フ

第二課日用書類

暑中安否ヲ問フ文

あまごころ大暑を候計九
十及とありはは昔は様
に清くも母之の如く様
々なり

物ヲ借リニ遣ス文

左の國より俄に来客有る
に付毎々此等心より
紙も書と通り紙の時借
付交致上

雨中人ニ與ル文

三ノ文書 初巻 三編 二九

連日雨をうけて田圃固く
以魚一種珍らしうらな
其魚中より解散し助とも
お氣直し申すに多し

深物ヲ頼ム文

昔々古依形中を以て事出
細字敷きうら海色級は
等段又書通うるお遠出
来程中付下

松茸ヲ贈ルニ謝ス文

然るに彼を以て見事
松葉深山は通う程

存片踏を老男より
来はて一人書院に侍

後徒ヲ賀スル文

新築は落成し
後精進中
粗酒一樽
三呈上侍

大風見舞文

吐物に近奉持り大風
作雲貴家と妙可
量之は子通
変大に延引

此作片

歳末ヲ賀スル文

年回子家字餘を答答之由
怒忙此家子一中心致を其
候と通り新臺尾進言候に
百生受取下と候へん

摘草ニ友ヲ誘フ文

友よりと毎上り高野辺
吉原候程生立り候
一日清田程中一交は都合
お伺候

花見ニ誘フ文

吉野山へ桜花候程候に
被地より教出者候に
一泊よりから清田候友
清田名を其上り候程是より
は候ひ候

筆店ヲ問合スル文

小學校より名仕候に
何事と云は候水お家候
和を實求候に有候上

神祭ニ人ヲ招ク文

来二千六百三箇地神祭
有候に風情も其候一共

御山は程方より直連と
書くより清光其言交
訪右左

劇場約束ヲ断ル文

明々々我座に在付不致
由納束と云不圖客答
不能比之付張云亦から以
交々交々山所中下左

菊花ヲ贈ラルニ謝スル文

此座亦菊の花枝に贈
下は是難有存下子世親
中にお揮り管院工供左

蕎麥ヲ饗應スル文

任所より蕎麥粉多分又
取寄時召下家々蕎麥
切就交曉程の縁合と
清光陳手訪左

潮干狩ヲ催ス文

此頃を自和未續と任右
満之潮干狩召集致左
候之遊釣之通御借致交
御都合之旨限中下紙
下紙下左

納涼ヲ誘フ文

今日は舞の御草一藝
塔巻の百粒深池の魚連
細縁青の教少の如何
非か法務の中心

新乾海苔ヲ贈ル文

昨日の東京の友人より新乾
海苔を送り紙に書きたる
近中風味と程はよく
之は故に沖笑味を下
交す

留守見舞文

沖名又様山用節なる候

此上東京の如く沖の名
中江麻紙巻入の山泉
玉朱の貝巻の山泉
望佳

歸旅ヲ報スル文

是中無滞の時又後巻
山泉の中主給く記
うはらうの沖礼中
尚山泉と後く物
可中

歸旅ヲ賀スル文

昨来の沖澤より帰

宛然如昔自由 似在昔中
了生於今之くも産之く
結核ありありと 漸増り
死下難有 山礼中上白

死ヲ弔フ文

逝花母様 山平 山長病
愛山喜生 山叶 山子 山子
七日 山死 吉 山 山 山 山 山
傍之 山 山 山 山 山 山

出産祝ヒノ文

今般 今 今 今 今 今 今 今
山 山 山 山 山 山 山 山
山 山 山 山 山 山 山 山

存我 古 山 祝 儀 之 之 山 者
ノ 物 山 上 山 山 山 山 山 山 山
山 山 山

招カレシ翌日送ル文

昨 初 之 終 之 山 山 山 山 山
結 之 山 山 山 山 山 山 山 山
山 山 山 山 山 山 山 山 山
同 様 之 山 山 山 山 山 山 山 山
山

茶會ニ友ヲ招ク文

茶 會 之 山 山 山 山 山 山 山
山 山 山 山 山 山 山 山 山
山 山 山 山 山 山 山 山 山

作不書 寂書二終 一不

以付一葉歎一愛漸閑
暇之佳以午後より以集
修持始也

留守ニ來ル人ニ送ル文

昨日と西舞をいふ交折る
他の中言解教を得以達
懺之思をい何色をを案
堂より申す毎お同く申す
ふ

K11A8



明治十六年四月廿六日 御願
全 十六年五月十二日 版權免許
全 年六月十日 出版

編輯人 大阪府平民 岸田吉興

大和國葛下郡竹井村
四十八番地

出版人 大阪府平民 藤田伊三郎

大和國高市郡八木村二
百廿四番地